

保健体育科部会

研究主題

豊かなスポーツライフの基礎を固める体育学習

～幼保・小・中・高の連携を通して～

1 主題について

今年度は、今回の学習指導要領改訂の趣旨に基づき、生涯にわたって運動を親しむ資質や能力の基礎を育てるために、幼保・小・中・高の連携を通して、系統性を踏まえながら学習内容を明確にするとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために、授業の中で「わかる」「できる」を体得させていくための指導法の工夫・改善に取り組むことで、児童生徒に主体的な学びと確かな学力を身に付けさせることができれば、「生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を固める体育学習になるであろう」という仮説の基に、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題の確認 第2回総合研究会の授業者決定 と研究会の持ち方について	10月28日	第2回総合研究会 授業研究会（田代中学校）
		随時	各校の授業研に自主的に参加

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月28日（金）
- ・会 場 田代中学校
- ・単元名 3年武道「柔道」
- ・授業者 野呂 謙一

① 授業者から

- ・本時は8／12時間の計画であったが、10時間目になった。受け身や既習技をしっかり定着させないと連続技は危険なので時間をとった。ゆとりをもった単元計画を立てないと次のステップにいけず、15時間は必要だと実感した。
- ・集団づくりは、最初は体格別、技能の向上につれて技別に組んできた。また、見取ることも大切なので3人組にしたり、技能的に優れている生徒がまだ技能が身に付いていない生徒に教えられるようにペアにしたりして、適宜取り入れてきた。
- ・生徒の技能の定着はビデオの方がよく、足りない部分を教師がやるとよい。自分たちの動きをビデオに撮って、自分たちで見るとよいと思うが時間に余裕がない。
- ・学校の研究テーマの「表現」を取り入れ、言葉でアドバイスできるようにしている。専門用語を生徒の引き出しに入れて、キーワードを黒板掲示に残すことで、生徒はそれを頼りに仲間にアドバイスでき、効果的であった。



【準備運動での受け身の練習】

② 協議

- ・礼法を大事にしており、膝を崩す時に「失礼します。」と言っていた。武道では当たり前のことを授業でもしっかりとやられていた。
- ・投げられた者同士がぶつかってけがをすると大変なので、安全面から畳2畳に1組が練習するようにする。テープで×（目印）をつけて、そこで練習させるとよい。
- ・頭をけがする場面では、抱きつく、無理に返そうとするなどがある。潔く投げられることも中学柔道の大切さではないか。「全力でも7割」を合い言葉に柔道の授業を行っている

学校もある。安全のための意識をもたせることが大切だ。

- ・練習の中で教え合いがあった。普段の練習がしっかりできているからだ。
- ・深める段階で2組の生徒たちの動きを見せた後の練習が格段によくなった。最初、イメージできないまま練習に取り組んでいたが、友達の様子を見て、イメージすることができた。生徒にイメージ化させることが大事だと思った。
- ・限られた時間の中で、いかに効果的に学習できるか。教えた方が技の定着がよいが、思考・判断の学習では、自分たちで考えた方がよい。本時の板書、掲示は生徒の思考・判断によいものであった。
- ・3年生の試合はどのような形がよいのか。投げだけの試合、団体戦をやるとおもしろみが出てくる、時間は2分で十分。
- ・女子生徒の握力が弱いため投げた後の引き手が十分でない。両腕で支えるとよい。



【連続技の自由練習の様子】

(2) テーマ研究（各校の柔道に関する実践の資料を基にした話し合い）

(3) 指導助言（高橋 敏治 指導主事）

① 本時の授業について

- ・生徒たちが教師の話素直に聞き、声を出し、よく動いていた。
- ・柔道の用語がしっかり掲示されており、板書もよかった。
- ・整理運動を活動後に入れていてよかった。
- ・技の写真や足さばきの教具があり、よく準備された授業であった。
- ・課題がすっきりしなかった。一つ目の技で相手が崩れたり、踏ん張ったりすることで得意技をかけることができる、ということが分かった上で一つ目の技を考える課題にしたらどうか。1時間の最後に生徒がどんな姿になっていけばよいか、どんなことが学習カードに書かれていけばよいかを考えて課題を提示したい。
- ・準備運動に十分時間をかけていたが、3年生なので練習(深める)の時間をもっととったらよい。

② 評価の最新の動向について

- ・技能を教えた終わりに、すぐに技能が身に付き評価ができることは難しい。練習する時間を確保し、少し期間をとって評価するような計画が必要である。
(知識・理解、思考・判断はその時間でできる。)
- ・本時では、本時の活動の評価だけでなく、前時まででやった活動の評価が出てくる。それをわかるように指導案に書くことになる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・新学習指導要領の完全実施を控え、男女必修の武道についての話し合いのできるよい場であった。特に安全面に関しては大変参考になり、事故防止を意識させるものであった。
- ・各校の柔道に関する実践の資料を基にした話し合いは、これからの自校の指導に役立つものであった。

(2) 課題

- ・限られた時間の中で、効果的に学習するためにどうしたらよいか。1時間の学習の中で発問をいかにしていくか。また、運動量も確保しなければならない。4観点のバランスのとれた単元計画を考えていかなければならない。
- ・武道が来年度から男女必修になるが、男女の力の差がある中で学習を進めなくてはならない。男女両方に対応した指導が必要である。